

SPARX

# 2011年3月期第3四半期決算 説明会資料

2011年2月17日



スパークス・グループ株式会社

# 2011年3月期第3四半期の業績 と 今後の施策



## Summary

- ▶ **実績:** ビジネスは着実に回復するも、「のれん」の償却・減損をカバーするに至らず。
  - 基礎収益力は黒字転換。AUMも明確な回復基調に。
  - 成功報酬は前期比大幅増。運用成績は、SAM/COSMO/PMAの全社で好調。  
⇒ 実質的な営業損益(「のれん」償却前)は、第3Q累計で5.6億円の黒字。
  - PMA社及びCOSMO社に係る「のれん」の償却をカバーするに至らず、PL上は営業損失。  
⇒ のれん償却額は12.6億円。営業利益は、第3Q累計で6.9億円の赤字。
  - 更に、PMA社に係る「のれん」の減損損失(15.2億円)を計上、純利益の赤字幅が拡大。  
⇒ 純利益は34.6億円の赤字。自己資本は141.2億円まで減少。  
⇔ 財務基盤の健全性に特段の問題は生じていない。
  
- ▶ **施策:** 既存ビジネスの回復を加速させ、グループ一体となり新分野で飛躍する。
  - 運用成績の好調さと、市場環境の好転により、既存ビジネスの回復は鮮明に。
  - グループ一体化の推進と新戦略立ち上げによる飛躍。
    - Localの強みを維持拡大すると同時に、Marketing・Operation等の一体化を促進。
    - One-Asia Long-Short投資戦略、One-Asiaロング・オンリー投資戦略の立ち上げ。
    - 環境・グリーンテック投資戦略の拡大・深化



## 2011年3月期 第3四半期決算サマリー (損益計算書)

### ▶ 営業収益 54.4億円 (前年同期比▲9.7%)

- 残高報酬は回復途上(37.0億円、同▲21.9%)
  - … AUM平残は前年同期比7.6%減少(6,130億円)し、残高報酬料率も低下(0.70%)したが、AUMは既に6,644億円(2011年1月末)まで回復、ボトム(2010年8月)から16.8%上昇。
- 成功報酬は前年同期比で大幅に増加(14.1億円、同154.4%)
  - … 運用成績は好調を継続、HWMとの比較からは今後も高水準を見込む。

### ▶ 営業費用・一般管理費 (61.4億円、同▲6.9%)

- 経常的経費は計画通りに削減(同▲22.5%)。
- 成功報酬等に伴う賞与、海外子会社幹部の退職に伴う関連費用等が一時的に増加。
- 「のれん」償却額12.6億円。



営業損失 ▲6.9億円 (前年同期: ▲10.0億円(注))

### ▶ 営業外収益(3.8億円)、営業外費用(5.7億円)

- 為替差損の発生が影響。

### ▶ 特別利益(0.8億円)、特別損失(21.5億円)

- PMA社に係る「のれん」減損損失(15.2億円)を計上。



四半期純損益 ▲34.6億円 (前年同期: ▲8.9億円)



(注) 前年同期営業損失からは、営業投資有価証券売却・評価損益(▲4.4億円)を除外して表示している(2011年3月期 第3四半期の当該数字は、ゼロ)。

## 2011年3月期 第3四半期 損益計算書等の概要

	2010年3月期		2011年3月期	
	第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	6,633	6,527	6,130	-7.6%
営業収益 (百万円)	6,031	7,893	5,444	-9.7%
営業費用・一般管理費 (百万円)	6,595	8,852	6,140	-6.9%
営業損失 (百万円)	-564	-959	-696	-
経常損失 (百万円)	-190	-446	-889	-
四半期純損益 (百万円)	-896	398	-3,469	-
従業員数(期末) (人)	203	203	176	-13.3%
TOPIX (期末)	907.59	978.81	898.80	-1.0%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。

(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびPMA社の運用資産残高を含む。なお、2010年12月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

## 営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳	2010年3月期		2011年3月期	
	第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	4,742	6,012	3,704	-21.9%
料率(手数料控除後) (%)	0.82%	0.79%	0.70%	-0.12
成功報酬 (百万円)	555	805	1,414	154.4%
営業投資有価証券売買損益 (百万円)	442	442	-	-
その他営業収益 (百万円)	290	631	326	12.2%
営業収益 合計 (百万円)	6,031	7,893	5,444	-9.7%

成功報酬付AUM比率	2010年3月期		2011年3月期	
	第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
スパークス・アセット	残高(億円) 1,187	1,203	920	-22.5%
	比率(%) 45.3%	43.1%	33.2%	-12.1
COSMO社	残高(億円) 2,033	2,037	2,077	2.2%
	比率(%) 88.5%	84.2%	79.9%	-8.6
PMA社	残高(億円) 962	918	515	-46.5%
	比率(%) 68.1%	64.9%	52.7%	-15.4
合計	残高(億円) 4,182	4,159	3,512	-16.0%
	比率(%) 66.1%	62.8%	55.3%	-10.8



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(ネット・ベース) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2010年12月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

# 経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2010年3月期		2011年3月期	
		第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
		内、賞与等 455百万円		内、賞与等 970百万円	
支払手数料	営業費用	720	960	563	-21.8%
人件費	一般管理費	2,403	3,379	2,687	11.8%
委託計算費	営業費用	108	127	53	-51.2%
旅費交通費	一般管理費	174	219	151	-13.2%
不動産賃借料	一般管理費	581	732	363	-37.6%
事務委託費	一般管理費	488	646	289	-40.7%
減価償却費	一般管理費	157	202	116	-26.2%
その他	一般管理費	838	1,062	651	-22.3%
のれん償却額	一般管理費	1,121	1,522	1,263	12.7%
営業費用・一般管理費 合計		6,595	8,852	6,140	-6.9%

55.4億円 (前年度)  
 経常的経費  
 (今年度:年換算) 42.9億円



- (注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。  
 (注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。  
 (注3) 「負ののれん償却額」として、86百万円(2010年3月期第3四半期)、74百万円(2011年3月期第3四半期)が営業外収益に計上されている。  
 (注4) 2011年3月期 第3四半期「その他」は、「その他(営業費用)」と「その他(一般管理費)」を合計して表示している。

## のれん残高及び償却見込み

▶ **PMA社** : **27.7億円(2010年12月末残高)、償却期間10年。**

⇒ 今後2016年3月期まで、毎年約5.1億円の償却負担の発生を見込む。

▶ **COSMO社** : **38.4億円(2010年12月末残高)、償却期間5年。**

⇒ 今後2016年3月期までの償却スケジュールは、以下の通り。

- ・2012年3月期/2013年3月期:約10.3億円
- ・2014年3月期:約9.1億円
- ・2015年3月期:約5.2億円
- ・2016年3月期:約1.8億円



今後3年間は、年間15億円程度の償却負担が、每期発生



(注1) COSMO社ののれん償却については、正ののれんと負ののれんの合計額です(つまり、営業費用と営業外収益とネット額)

(注2) 新会計基準の導入により、COSMO株式追加取得に係るのれんを一部外貨で認識しているため、為替変動の影響を受けます。

(注3) IFRS導入により、スケジュールどおりののれん償却を行わない可能性があります。

# 基礎収益力

## 残高報酬(手数料控除後) VS 経常的(固定的)経費

		2010年3月期	2011年3月期3Q
		通期	(年換算ベース)
AUM平残	(億円)	6,527	6,130
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.79	0.70
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	5,135	4,278
経常的経費	(百万円)	5,543	4,296
<b>基礎収益</b>	<b>(百万円)</b>	<b>▲408</b>	<b>▲17</b>

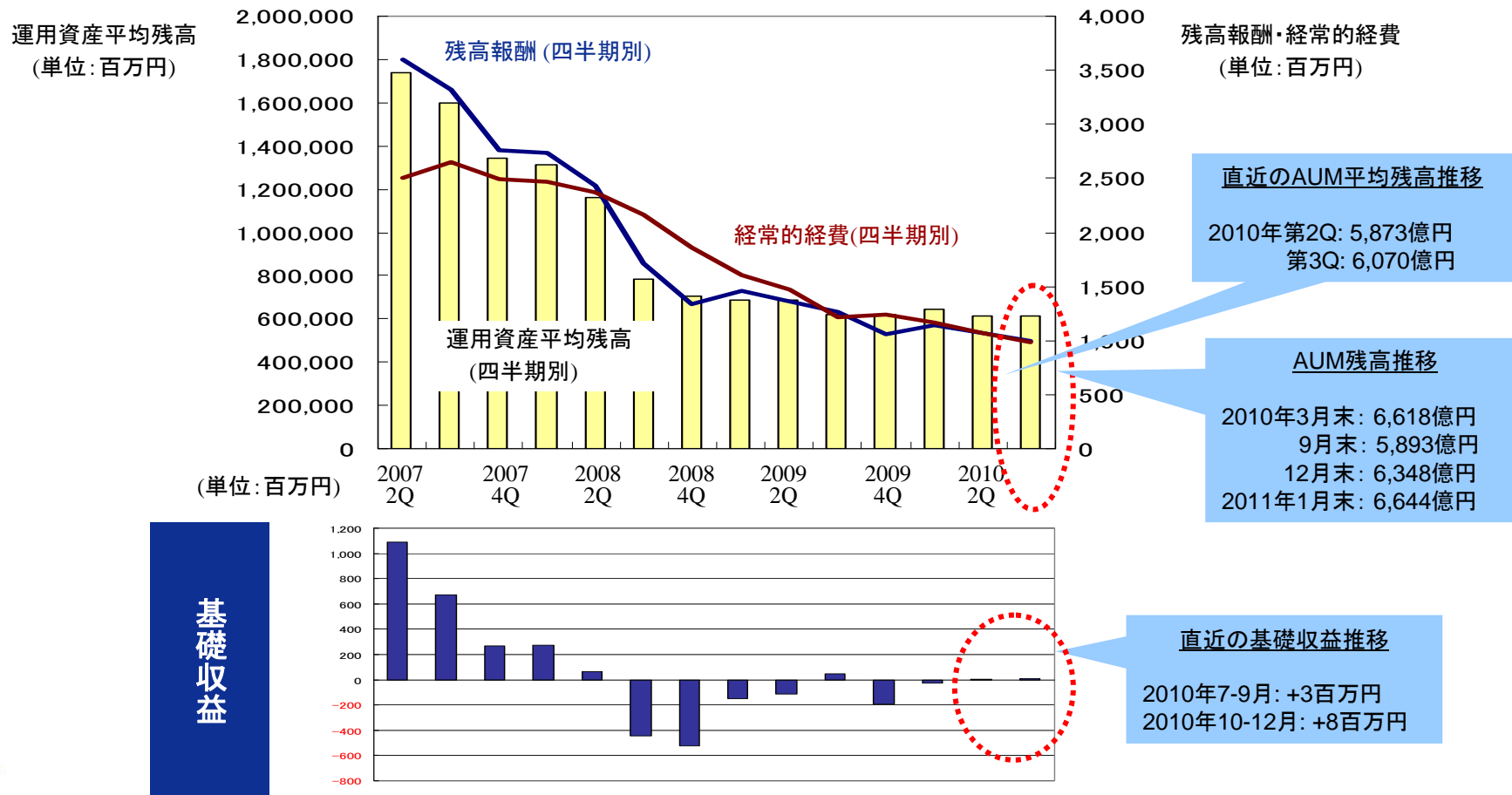


(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

# 基礎収益力は回復へ

四半期ごとの推移 (運用資産平均残高、残高報酬(支払手数料控除後)、経常的経費、基礎収益)



(注1) 「残高報酬(支払手数料控除後)」は概算値として、運用資産平均残高と残高報酬料率とで算出した換算値を使用している。  
 (注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用+一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

## 2011年3月期 第3四半期決算サマリー (貸借対照表)

### ▶資産の部 (309.0億円、前期末: 367.7億円)

- 現預金残高(128.5億円、前期末152.7億円)
- 投資有価証券(75.3億円)・・・主にグループ各社が運用するファンドへのシードマネー

### ▶負債の部(150.8億円、同:156.8億円)

- 一年内返済予定の長期借入金 (80.0億円・・・2011年1月返済予定:30億円、2011年11月返済予定:50億円)、
- 社債(2012年9月償還予定:49.0億円)

2011年1月末に既に返済済み。

外部負債と同等以上の手元流動性を維持 & 営業キャッシュフローは既に黒字化。

### ▶純資産の部(158.2億円、同:210.8億円)

- 自己資本(141.2億円)から「のれん」(66.2億円)含む固定化された資産全体を差し引いた額は、必要Working Capitalの額を十分に上回っている。

流動性も含め、BSの健全性は引き続き確保されている。



## 2010年12月末時点 貸借対照表概要

(単位:百万円)	2010年3月末	2010年12月末	前期末比
流動資産	19,090	16,121	-15.6%
うち、現預金	15,270	12,852	-15.8%
うち、有価証券	726	861	18.5%
固定資産	17,684	14,787	-16.4%
うち、のれん	7,623	6,622	-13.1%
うち、投資有価証券	9,254	7,536	-18.6%
<b>(資産の部 合計)</b>	<b>36,774</b>	<b>30,908</b>	<b>-16.0%</b>
一年内返済予定長期借入金	3,000	8,000	166.7%
社債	5,000	4,900	-2.0%
長期借入金	5,000	-	-100.0%
<b>(負債の部 合計)</b>	<b>15,689</b>	<b>15,080</b>	<b>-3.9%</b>
資本金・資本剰余金	26,696	26,728	0.1%
利益剰余金	-3,868	-7,329	-
自己株式	-4,438	-4,438	-
少数株主持分	2,715	1,600	-41.1%
<b>(純資産の部 合計)</b>	<b>21,084</b>	<b>15,827</b>	<b>-24.9%</b>

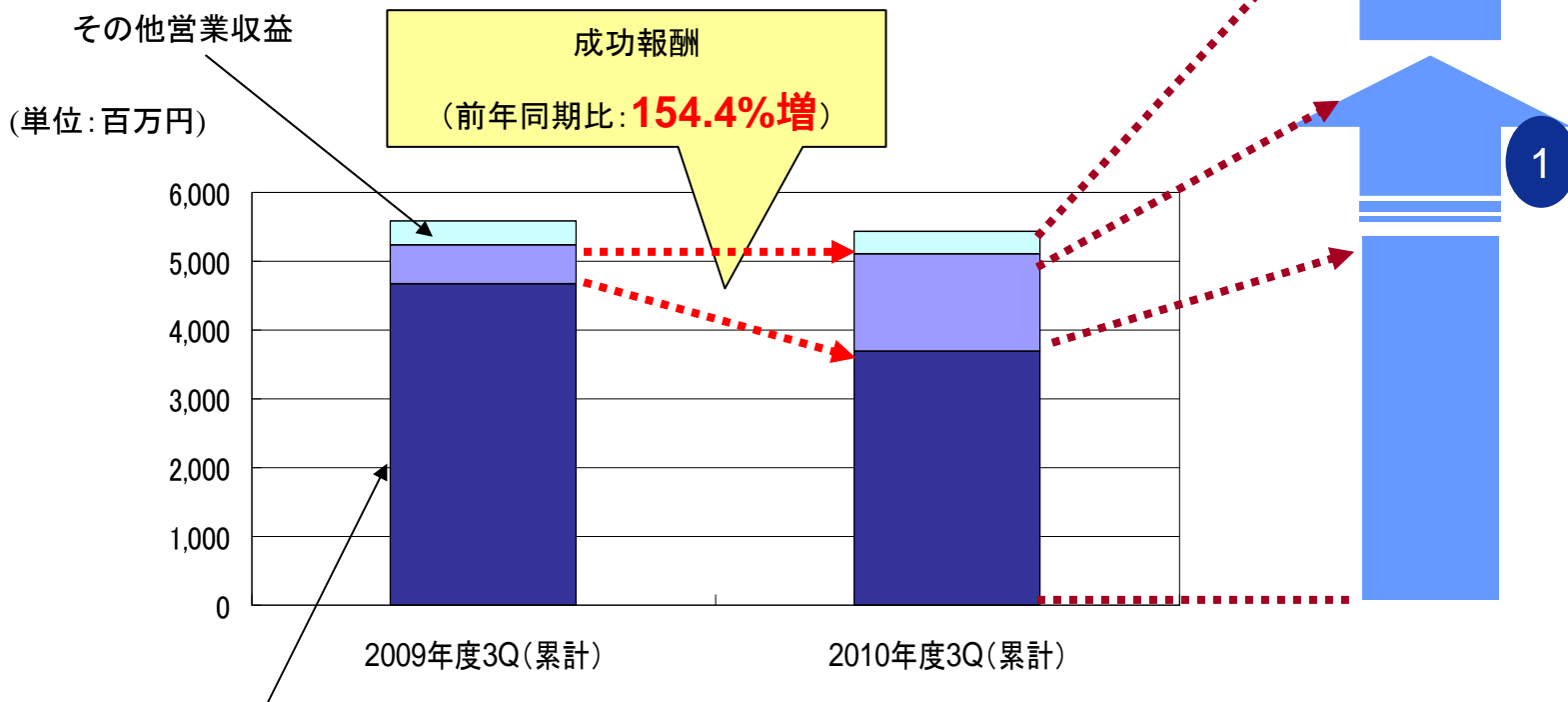


(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 投資有価証券は、当社の運用ファンドへのシードマネーを含む。

# グループ全体での「既存ビジネスの回復加速」&「新分野の拡大」

四半期ごとの残高報酬・成功報酬・その他営業収益の推移



## 2 「新分野の拡大」

- グループ各社の持つ強みを結集し、グループ全体でEdgeの効いた商品提供 (One-Asia株式投資戦略の立ち上げ等)

## 1 「既存ビジネスの回復加速」

- グループ全体でのマーケティング強化  
⇒ AUM回復加速
- 運用成績は好調持続  
⇒ 成功報酬は拡大基調  
⇒ 既存商品への評価上昇 (AUM回復へ)
- 世界的に好調な市場環境が回復を後押し。



残高報酬

(注) 上記表においては、営業投資有価証券売却・評価損益を除外して表示している。

## スパークス・アセット(SAM社)の状況

### 「日本株ビジネスの明確な回復」

- 日本株運用のパフォーマンス改善が鮮明に
  - 3年ベースでのTrack Recordは、全投資戦略で明確に改善。
  - 大型ファンドの運用成績が、急速にHWMに近づく。
  - モーニングスター社優秀ファンド賞を2年連続受賞。
  - 米国WSJ紙のQuarterly Fund Analysis (日本株部門)ランキングで”Hennessy Select SPARX Japan Smaller Companies Fund”が1位
- AUM動向も流入超に転換
  - 海外から大型資金(日本株運用力、商品力(スマートグリッド)への高い評価)
  - 国内でもアジア(中国)を軸にした公募投信設定
    - 海通グレーター・チャイナ・ファンドの設定(2011年1月末現在:約53億円)



## (事例) モーニングスター「優秀ファンド賞」の2年連続受賞

### スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド (『愛称:ライジング・サン』) 国内株式型 部門 優秀ファンド賞



(出所) Morningstar Award Fund of The Year 2010 授賞式資料 (2011年2月1日開催)

(注)

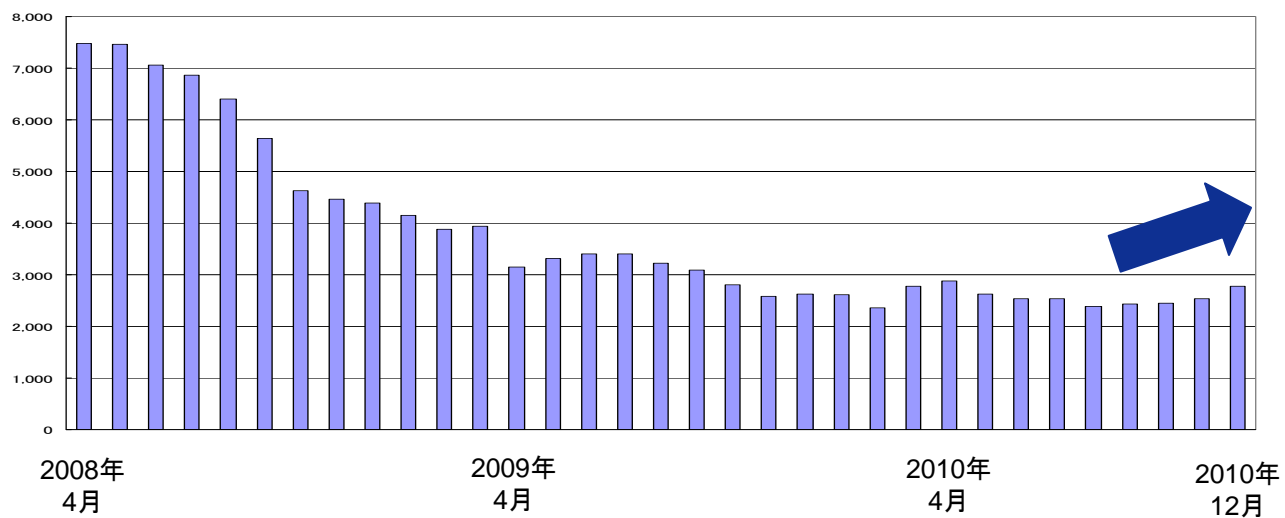
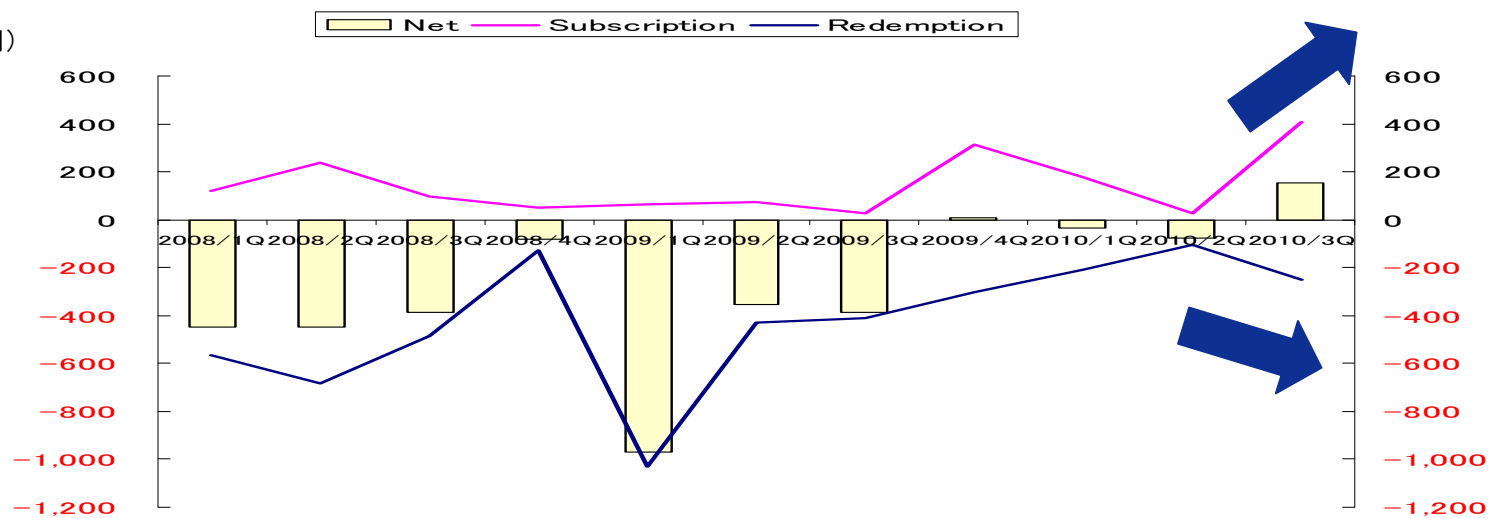
Morningstar Award "Fund of the Year 2010"の授与は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、平成22年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型 部門は、平成22年12月末において運用期間1年以上の当該部門に属するファンド657本の中から選考されました。



# SAM社:AUM動向 --- 大型設定により純流入に転じる。

(単位:億円)



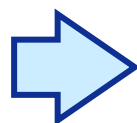
2011年1月末  
2,874億円



# 1 COSMO社の状況

## 「AUM残高、運用成績、会社業績の全てにおいて、好調を持続」

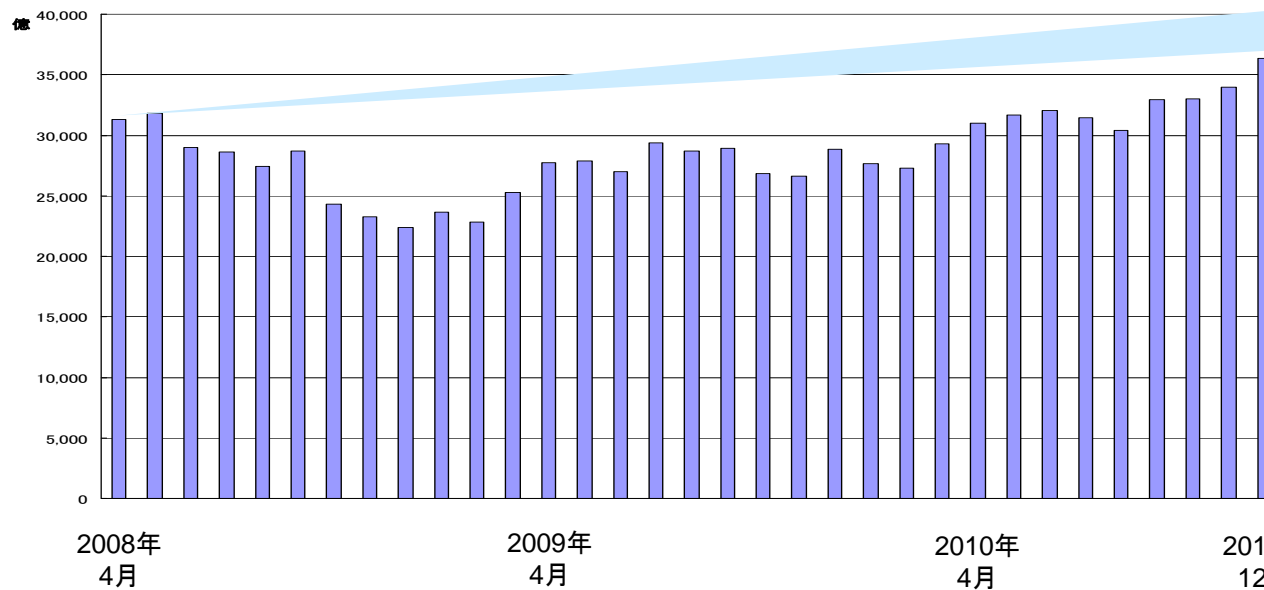
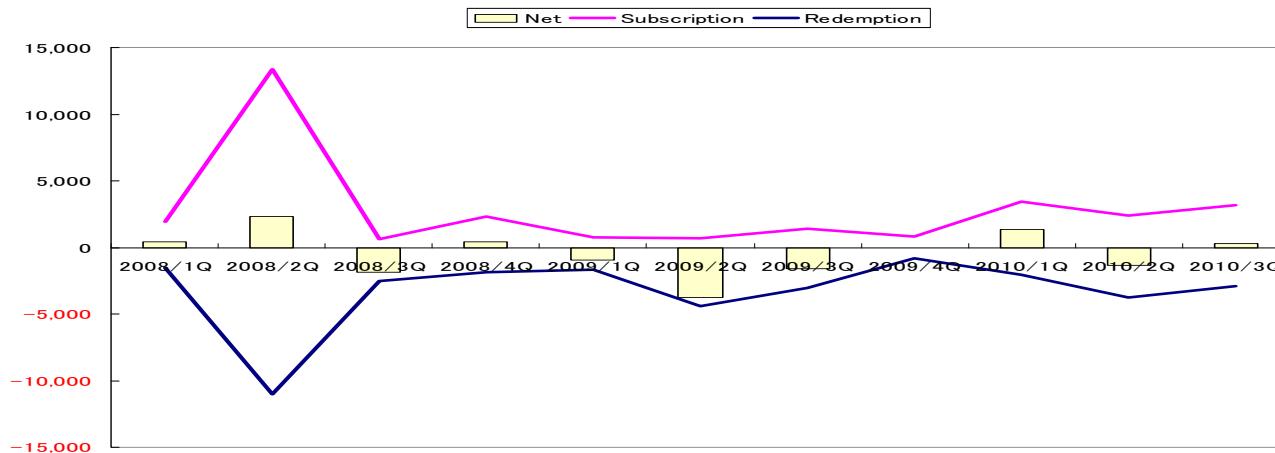
- AUM残高はピーク更新
  - Management変更に伴う海外顧客の解約があったものの、機関投資家等を中心に韓国国内での大口の資金導入が続いている。
  - 2010年12月末のAUM残高は3.6兆KRWで前年末比24.1%増加(⇒2011年1月末で3.8兆KRW)。
- 優れた運用成績が続く
  - 直近1年間のCOSMOの(AUM加重平均)パフォーマンスは、KOSPIを4.9%Outperform。
  - COSMO社単体における2010年4-12月の成功報酬は、125億KRWで前年同期比で約3倍。
- 会社業績も好調
  - 退職幹部への退職金支払や賞与引当の計上時期変更あるも、COSMO社単体における四半期純利益は、前年同期比約35%の増益。



海外顧客からの資金導入に向け、新しいオフショアファンドの立ち上げ、グループ一体でのMarketing強化。韓国国内でも大手銀行等との販売提携を加速。投信ライセンス取得を見込み、体制を整備。

# Cosmo社(KRW) --- AUM残高はピーク更新

(単位: 億ウォン)



2008年4月末  
31,270億KRW  
3,259億円



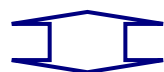
2011年1月末  
38,528億KRW(+23.2%)  
2,815億円(▲13.6%)



# 1 PMA社の状況

## 「既存ビジネスの回復を図り、グループ一体化の運営拠点に進化」

- 高い運用成績を上げているファンドもあり、運用力への再評価を期待。
  - マクロ系・クレジット系を中心に、第3Q累計の成功報酬はUS\$4.6mil.にまで回復（前年同期US\$2.6mil.）。
- 既存ビジネスから派生した新ビジネス（Arrangement等）が着実に収益化。
- コスト効率化を推進、経常的経費は大幅削減。
  - CY2009:US\$15.4mil.⇒CY2010:US\$13.2mil.⇒CY2011:US\$11.0mil.（見込み）
- アジアでHedge FundのPlatform機能を果たし得る希少な存在。



本質的な企業価値は健在だが、

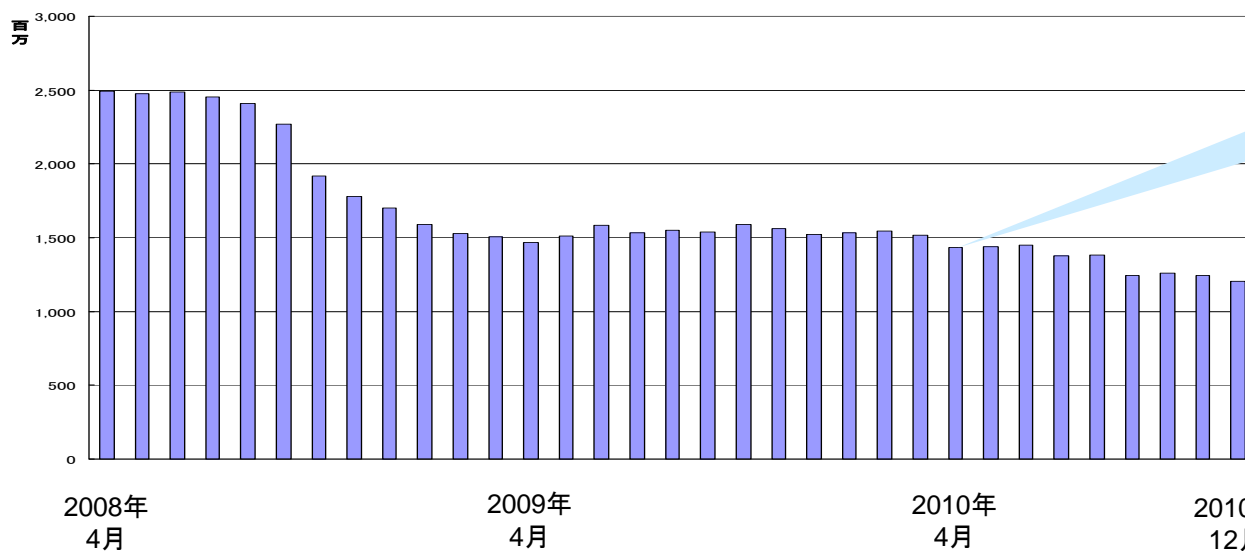
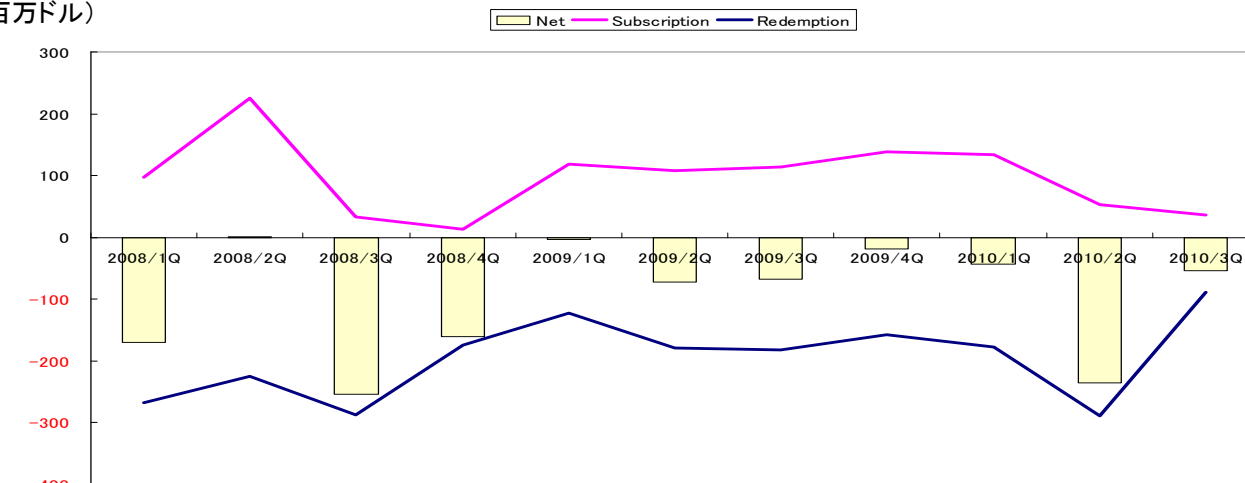
トップマネジメントの変更等に伴う顧客基盤の劣化が十分に回復しておらず、AUMの低迷が続いている点を重視し、保守的にPMA社の企業価値を再評価し、「のれん」を減損処理。

ユニークで力量ある運用部隊と経験豊富なOperation部隊が健在であり、グループ全体によるMarketing、商品の進化に取り組むことで、既存ビジネスの回復を目指す。

グループ共通の商品組成と販売において、運用/Operation/Marketing面におけるPlatform機能を果たす（今春にも、SAM社・COSMO社からスタッフ派遣予定）。

# PMA社(US\$) --- AUMの低迷続くも、底打ちへ。

(単位:百万ドル)



2010年4月末時点  
1,433百万US\$  
1,347億円



2011年1月末  
1,166百万US\$ (▲18.7%)  
955億円 (▲29.1%)



## 2

## 新分野の拡大・・・新たな成長ステージへ①

SAM社(Tokyo)、COSMO社(Seoul)、PMA社(Hong Kong)が持つ強みを最大限に維持する一方、各社の力とResourcesを統合し、“Center for Asia Investment Intelligence”の理念を事業として具体化する。

▶ 投資仮説

- 日本における経験を元に、“Asian Dynamism” (World’s Factory & Mass Consumer Markets)が、如何に市場に反映されるかの仮説を提示。

▶ 商品組成

- One Asia Long-Short投資戦略、One-Asiaロング・オンリー投資戦略
- 環境・グリーンテック投資戦略
- Soft Activist タイプの新しい投資戦略

▶ 運用／調査体制

- 既にグループ・ワイドに選抜した運用／調査チームを組成。
- SAM社が長年培ってきた日本企業に対する分析手法をベースに、COSMO社及びPMA社が有するノウハウとネットワークを融合・結合させ、One-Asia運用チームとして活動。
- 活動拠点をHong Kongにて構築予定。



## 2

## 新分野の拡大・・・新たな成長ステージへ②

## ▶ Marketing

- 日本国内での公募投信設定を急ぐ一方、Globalな機関投資家等へのグループ一体となった営業体制をHong Kong中心に構築予定。

## ▶ Operation

- 各国内公募投信の運営は各国固有の規制に準拠する必要があるが、Off-Shoreに係る運営は、最大限Hong Kongに集約予定。
- IT等の共通化を進める。

## ▶ Compliance

- グループワイドな活動と各国固有の法規制を遵守する体制構築。

## ▶ HR &amp; Management

- 人事体系の共通化レベルの検討。
- 事業モデルと統合的なManagement体系への進化の必要性。



One-Asiaの運営を早期に軌道に乗せ、収益力の回復を図り、日本/韓国/香港からアジア全域のNetwork構築を進める。



## 参考資料



## 各社別運用資産残高の増減(2010年3月末～2010年12月末)

(単位:億円)

スパークス・アセット社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年12月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	759	32	-119	-86	33	706
日本株式集中投資戦略	205	15	-38	-23	-15	166
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	173	0	-135	-135	-37	0
日本株式一般投資戦略	339	6	-59	-53	-15	270
日本株式中小型投資戦略	1,253	192	-145	47	-24	1,276
環境・グリーンテック投資戦略	0	198	0	198	25	224
その他	51	165	-67	97	-19	129
合計	2,783	610	-566	43	-54	2,773

COSMO社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年12月末
韓国株式インデックス運用戦略	1,622	380	-138	242	173	2,038
韓国株式一般投資戦略	407	311	-296	15	-80	342
韓国株式ロング・ショート投資戦略	162	0	-95	-94	52	120
韓国株式集中投資戦略	120	0	-36	-36	11	96
その他	104	0	-105	-105	0	0
合計	2,419	693	-671	21	157	2,598

PMA社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年12月末
アジア株式投資戦略	386	1	-166	-164	-5	216
アジア・欧州債券投資戦略	582	21	-239	-217	-98	265
アジア・マクロ投資戦略	153	85	-16	68	-54	167
その他	292	84	-61	23	10	326
合計	1,415	193	-484	-290	-148	976



- (注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。  
(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2010年12月末の換算レートによる差額分が含まれている。  
(注3) 2010年12月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

## スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2010年12月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	6.90%	2.27%	13.13%	3.04%	4.09%
参考インデックス値	-2.24%	-0.12%	-0.01%	-3.62%	-2.67%
超過リターン	<b>9.14%</b>	<b>2.39%</b>	<b>13.14%</b>	<b>6.66%</b>	<b>6.76%</b>

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	1997年8月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	23.34%	18.57%	11.10%	6.76%	21.30%

(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ (2010年12月末現在)



## スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、PMA社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

### 3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
日本株式一般(合同口)	60.69%	-14.57%	-28.93%	-34.48%	34.27%
日本株式中小型	44.34%	-11.86%	-28.95%	-25.64%	33.32%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	27.95%	-3.74%	-14.43%	5.95%	8.77%
日本株式L/S(円建、Lev1)	18.68%	-7.50%	-11.31%	-4.13%	6.03%
日本株式集中投資	48.94%	-18.71%	-10.14%	-25.67%	23.14%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のもの)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(「スパークス」)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。スパークスは、1997年4月1日以降2009年12月31日までの期間について独立した検証者による検証を受けています。検証は、(1)会社がコンポジット構築に関するGIPS基準に準拠しているかどうか、および(2)会社の方針と手続きが、GIPS基準に準拠してパフォーマンスを計算し、提示するよう設計されているかどうかについて評価するものです。検証は、特定のコンポジット提示資料の正確性を確かめるものではありません。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社及びSPARX Overseas Ltdで構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。なお、「会社」の再定義をおこなったため、2009年10月15日付けで、解散したSPARX Investment & Research, USA, Inc.(SIR)を「会社」の定義から除外し、また2010年11月30日付けで、株式譲渡したSPARX International (Hong Kong) Limited (SHIK)を「会社」の定義から除外しております。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)